

《日本研究所 活動報告》

Asian Philosophical Texts (3) 開催報告

ムスタツェア・アレクサンドラ

神田外語大学日本研究所・ブリュッセル自由大学東アジア研究センターの共催国際会議、第三回 Asian Philosophical Texts を一月一三・一四日にオンラインで開催した

本会議は欧米中心主義に基づく哲学〔philosophy〕の定義を見直し、日本をはじめ、インド、中国、韓国などアジア地域に現れた思想もその定義に含め、「哲学」をより包括的に考察することを狙っている。今回の会議もこれまで欧米圏にほとんど翻訳されていない、あるいは知られていないアジアの哲学に関して、各国から集まった研究者たちが成果を発表した。その内容はこれまでと同じく、*Asian Philosophical Texts vol.4* に収録される見通しである。

ある。

本学日本研究所は、二〇一八年度にブリュッセル自由大学東アジア研究センターと学術協定を締結して以来、ブリュッセル自由大学や神田外語大学にて本会議を毎年開催してきたが、二〇二〇年度はコロナ禍の影響で休会となり、今回が三度目の会議となった。パネルディスカッションが二件（発表者は各三名ずつ）、個人発表が八件で、日本をはじめインド、ベルギー、ルーマニア、アメリカ、カナダ、イギリス、韓国から計一四名の発表者が集まった。小規模開催ではあったが、討論の時間を長く確保でき、各思想についての理解を深めることができ、実りの多い有意義な二日間であった。

第一日目は日本文学論と日本の近代哲学、第二日目はインド哲学と中国の老荘思想がテーマであった。

以下、参加者と発表の内容について手短かに、発表順に記述する。

第一日目

(1) Irina Holca 氏（東京大学）、Clarence I-Zhuen Lee 氏（コロラド大学）、Roman Pasca 氏（京都大学）のパネルディスカッション「Walking the Thin Line of (Re)Translation between Literature, Theory, and Philosophy は、哲学としての（日本）文学理論を話題にし、各々が現在携わっている翻訳プロジェクトについて報告した。

(2) 長谷川友香氏（東京学芸大学）の「Tsuchida Kyōson and His Notion of Jinkaku as “articulatory identity” は、土田杏村の「人格」の英語訳を中心に、近代日本哲学が想定している「アイデンティティ」を分析した。

(3) Alexandra Mustăţea (神田外語大学) の What is “Ethics”? What is “ethics”? Some Reflections on

Translating Watsuji Tetsuro's Nihon Rini Shisōshi ち『日本倫理思想史』の序章を中心に、和辻哲郎の「倫理」「倫理学」「倫理思想」の哲学的な解釈及びその翻訳語の選択肢について考察した。

(4) Federica Sgarbi 氏 (同志社大学) の Daisetz Suzuki on Swedenborg - Translation and religion: crafting spiritual transition は、鈴木大拙の思想の分析を通じて、近代日本におけるスウェーデンボルグの思想的重要性について述べた。

(5) Matthew Orsborn 氏 (オクスフォード大学) の Critical Reflections in Translating Kumārājīva's Xiaopin

Prajñāpāramitā は、自身が進めている『般若経』(『般若波羅蜜多経』)の翻訳枠組みを説明した。

第二回

(6) Anthony Scott 氏 (トロント大学) の Higher Forms of Commentary and Reverse Prolepsis in the Milindapaṇha-aṭṭhakathā は、上座部仏教のパール文献「ミリンダ王の問ひ」(「ミリンダパンハ」)の注釈の信頼性について述べた。

(7) Niladri Das 氏 (シヤタプー爾大学) の The Significance of Sātyāntarīyā during Dream: A Philosophical Enquiry in the light of Ratnaprabhāvarṃśa は、不二元論 (Advaita Vedānta) 哲学における「夢」の解釈を中心に、認知科学との関係について考察した。

(8) Madhumita Chattopadhyay 氏 Maitreyee Datta 氏 Gargi Goswami 氏 (三名ともシヤタプー爾大学) の パネルディスカッション Milindapaṇha An Early Buddhist Text with Modern Thoughts は、『ミリンダ王の問ひ』に収められた伝説に注目し、近代におけるそれらの思想的意義について論じた。

(9) Ilhoon Oh 氏 (ハンヤン大学) の What is Dao? Focusing on the Analysis of the Chapter 22 in Zhuangzi 荘『老荘思想における「道」の概念解釈を検討した。

(10) Peter C. Hertogh 氏 (ブリュッセル自由大学) の Turn to Butterfly Dream - Thought Experiment Analyses of Zhuangzi は、老荘思想を分析哲学の視点から考察した。